

平成30年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第8号

平成30年7月26日発行

宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html>

食味向上へ向けた重点取組事項

- ・葉色の濃淡に応じた適切な追肥を行いましょ（追肥時期と施肥量に注意）。
- ・幼穂が形成されていますので、間断かん水を行いましょ（低温時は深水管理）。

今後の管理のポイント

- ・斑点米カメムシ類の防除を適期に行いましょ。
- ・いもち病の発生に注意しましょ。

1 水稻生育調査ほの生育概況（移植）

- ・生育調査ほ・本吉ひとめぼれにおいては、幼穂形成期を過ぎ、まもなく減数分裂期に達するものとみられます。志津川ひとめぼれ及びだて正夢においては、減数分裂期を迎えています（7月20日現在）。

表1 水稻生育調査結果（7月20日）

| 品 種 地区名 | | 田植日 | 栽植密度 (株/㎡) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/㎡) | 葉数 (枚) | 葉色 (GM) | 幼穂長 (mm) |
|--------------------|--------------|-------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| ひとめぼれ 気仙沼市（本吉町） | 本 年 平年比・差 | 5月15日 +1 | 19.3 97% | 66.6 102% | 461.3 84% | 11.2 -0.3 | 32.7 100% | 42.4 +23.1 |
| ひとめぼれ 南三陸町（志津川） | 本 年 | 5月18日 | 17.2 | 66.2 | 507.4 | 11.5 | 32.1 | 50.2 |
| だて正夢 気仙沼市（本吉町） | 本 年 | 5月16日 | 18.6 | 66.7 | 396.2 | 11.4 | 32.1 | 31.2 |

注1) 平年比・差は平成25年から平成29年までの5か年の平均値と本年調査結果の比較。

注2) 志津川ひとめぼれは本年度から、だて正夢は平成29年から調査開始のため平年値はなし。

2 今後の生育予測

- ・管内の生育については減数分裂期を迎えているものとみられます。
- ・管内の出穂期は8月6日から8月16日頃（古川農試、7月24日現在）と予想されていますが、7月中旬以降の気温が平年を上回る状況で推移していることから、予想より出穂期が早まる可能性がありますので、薬剤防除の適期を逃さないよう、ほ場を巡回し、生育状況を確認してください。

表2 生育ステージの予測（7月24日現在、古川農業試験場）

| 地帯区分 | 田植時期 | | 幼穂形成始期 | | 減数分裂期 | | 出穂期 | |
|------|------|--------|--------|--------|-------|--------|-----|--------|
| | 始期 | ～ 終期 | 始期 | ～ 終期 | 始期 | ～ 終期 | 始期 | ～ 穂揃期 |
| 三陸沿岸 | 5/ 7 | ～ 5/23 | 7/12 | ～ 7/21 | 7/22 | ～ 7/31 | 8/6 | ～ 8/16 |

3 直播栽培普及展示ほの生育概況（鉄コーティング湛水直播）

- ・気仙沼市本吉町の直播栽培普及展示ほでは、草丈は平年並ですが、茎数は平年の半分程度、葉数は1.1枚少なくなっています。

表3 直播栽培普及展示ほ生育調査結果（7月20日）

| 品 種 地区名 | | 播種日 | 草丈 (cm) | 莖数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 葉色 (GM) | 幼穂長 (mm) |
|--------------------|--------------|-------------|--------------|---------------------------|-------------|-------------|-------------|
| ひとめぼれ 気仙沼市（本吉町） | 本 年 平年比・差 | 5月15日 +1 | 55.6 104% | 279.3 49% | 9.5 -1.1 | 26.8 72% | 1.7 +0.3 |

注）平年比・差（参考値）は平成26年から平成29年までの4か年の平均値と本年調査結果の比較。

4 気象の概況

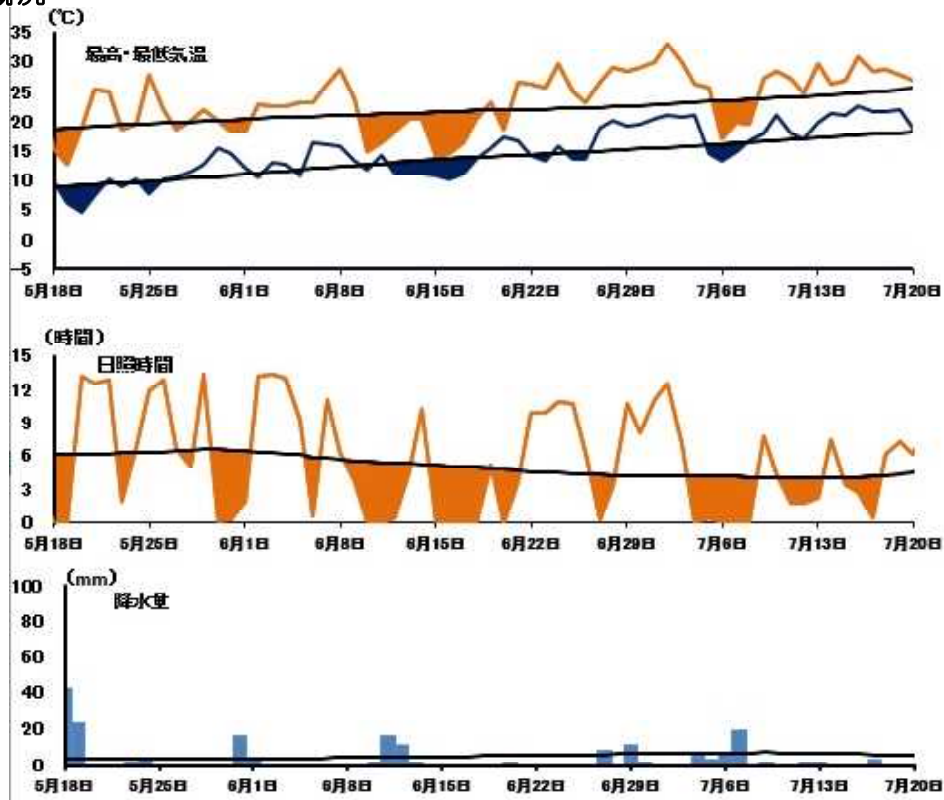


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月18日～7月19日）

5 今後の管理の留意点

【今後の水管理】

- ・穂ばらみ期から出穂・開花期前後は水の吸収量が最も多い時期です。この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ減収や品質低下を招きます。
- ・低温時を除き、稲に十分水を与えつつ、根に酸素を供給する間断かん水を行いましょう。

細線／通常の水管理

太線／低温時は深水管理

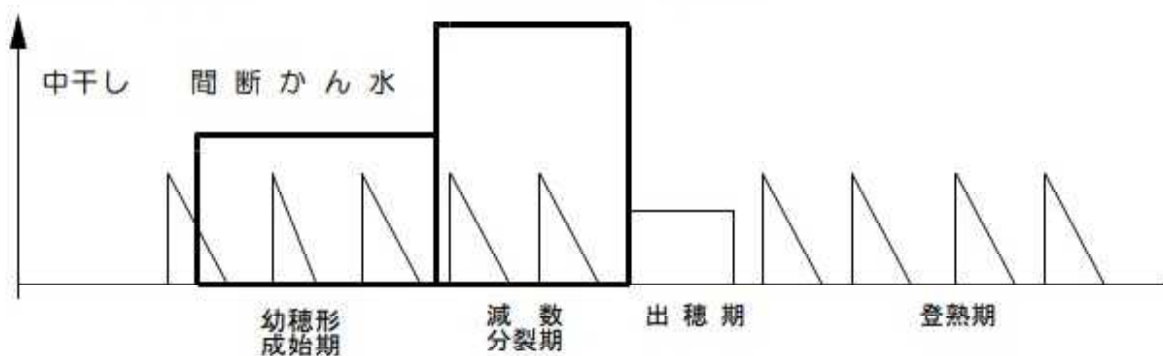


図2 中干しから登熟期までの水管理

【追肥】

- ・追肥の実施により，登熟期の光合成能力が向上し，白未熟粒の発生の軽減，玄米品質や食味の向上が期待できます。
- ・ほ場ごとに葉色，生育ステージ及び生育量を確認して適切な追肥を行い，葉色が急激に低下しないようにしましょう（表4，表5，表6）。

表4 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

| 生育ステージ | 出穂前日数 | 幼穂長 (mm) | 葉耳間長 (cm) |
|--------|-------|----------|-----------|
| 幼穂形成始期 | 25日前 | 1~2 | - |
| 減数分裂期 | 始期 | 15日前 | -10 |
| | 盛期 | 12日前 | ±0 |

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって，出穂前日数を知ることができます。

表5 幼穂形成始期及び減数分裂始期の葉色の目安

| 品種名 | 幼穂形成始期 (出穂25日前) | | 減数分裂始期 (出穂15日前) | |
|-------|--------------------|------------------|--------------------|------------------|
| | カラースケール (葉色板) | 葉緑素計値 (SPAD値) | カラースケール (葉色板) | 葉緑素計値 (SPAD値) |
| ひとめぼれ | 4.2~4.5 | 37~39 | 3.9~4.2 | 35~37 |
| ササニシキ | - | - | 3.4~3.7 | 32~34 |
| まなむすめ | 3.9~4.2 | 35~37 | - | - |

注) 平成29年の本吉ひとめぼれの幼穂形成始期は7月15日頃，減数分裂期は7月25日頃です。

表6 追肥の目安

| 品種名 | 追肥時期別及び施肥量 (窒素分量) | |
|-------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 幼穂形成始期 (出穂25~20日前) (幼穂長 1~2mm) | 減数分裂期 (出穂15~10日前) (幼穂長 3~12cm) |
| ひとめぼれ | 1.0kg/10a | 1.0kg/10a |
| ササニシキ | - | 1.0~1.5kg/10a |
| まなむすめ | 2.0kg/10a | - |

【病害虫防除】

表7 病害虫発生予報第7号 (平成30年7月20日発行，宮城県病害虫防除所)

| 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----|
| 葉いもち | - | 平年並 |
| 穂いもち | (発生初期) 平年並 (8月第3半旬:8/11~ 8/15) | 平年並 |
| 紋枯病 | - | 平年並 |
| 稲こうじ病 | - | やや少 |
| 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ) | (水田侵入始期) 平年並 | 平年並 |
| イネアオムシ (フタオビコヤガ) | - | やや少 |
| コバネイナゴ | - | 多 |

- ・詳細については，県病害虫防除所ホームページ病害虫発生予報を参照願います。

(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/h29yosatsu.html>)

①いもち病

- ほ場を入念に見回り，上位葉でのいもち病斑の早期発見・防除に努めましょう。
- すでに粒剤による穂いもちの予防粒剤を散布した場合でも，葉いもちの発生が確認された場合は直ちに，茎葉散布剤による防除を実施してください。特に追肥後は一時的に稲体の窒素濃度が高まり，いもち病菌に対する侵入，進展抵抗力が低下するので注意しましょう。
- 出穂直後が穂いもちに最も感染しやすいので，防除適期を逃さないようにしましょう。

表8 穂いもち防除薬剤の防除適期

| 剤の種類 | 防除適期 |
|-------|----------------|
| 予防粒剤 | 出穂20～10日前 |
| 茎葉散布剤 | 1回目 出穂直前 |
| | 2回目 穂揃期 |
| | 3回目 穂揃期の7～10日後 |



注) 茎葉散布剤の3回目防除は，葉いもちの発生が多く，穂いもちが多発するおそれがある場合に実施。

図3 いもち病の病斑
(左：進行型病斑，右：停滞型病斑)
(宮城県病害虫防除所)

②紋枯病

- 出穂期前からの発病は被害が大きくなるので，発生に注意してください。
- 茎葉散布剤による散布適期は穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準（減収率5%，被害発生確率50%の場合）は，穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので，要防除水準に達した場合は，防除を行ってください。

表9 紋枯病防除要否の判定基準（普及に移す技術第90号）

| 被害許容水準 | 穂ばらみ期の発病株率 | |
|------------|------------|-------|
| | ひとめぼれ | ササニシキ |
| 収量5%以上減収 | 18% | 10% |
| 収量3%以上減収 | 12% | 9% |
| 収量1%以上減収 | 10% | 3% |
| 白未熟粒3%以上増加 | 67% | 28% |
| 白未熟粒1%以上増加 | 11% | |



注) ほ場での発病株率の調査は，畦畔際とする。

図4 紋枯病の病斑
(宮城県病害虫防除所)

③稲こうじ病

- 前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので，適期（出穂20～10日前）に防除を実施しましょう。
- 窒素肥料を多く散布すると発生を助長することがあるため，追肥の際は注意してください。

④斑点米カメムシ類

○出穂10日前までの防除対策（耕種的防除）

- 病害虫防除所から7月5日に防除情報第2号が発表されました。水田周辺での斑点米カメムシ類の発生が早まっています。水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。
- 畦畔の草刈りは，出穂10日前までには終わらせましょう。



図5 アカスジカスミカメ
(宮城県病害虫防除所)

○出穂期以降の防除対策（薬剤防除）

- 薬剤による防除は，「穂揃期（※1）とその7～10日後」の2回散布を行ってください。
- 水田内雑草が多いほ場では，1回目の防除時期を穂揃期から「出穂始（※2）」に早めてください。

○斑点米カメムシ類第1回目の防除適期について



- 左の写真のように穂の先端が止葉葉鞘から出た状態の茎が、ほ場全体の5～10%程度の時期を「出穂始」(※2)、40～50%程度の時期を「出穂期」、80～90%程度の時期を「穂揃期」(※1)とといいます。
- 「出穂始」は「穂揃期」の約5～6日前です(※2)。
- 一般的には、穂が完全に伸びきった時期を「穂揃期」と呼んでいることが多いようですが、正しい時期を理解して適期防除を心がけてください(※1)。

5 今後の気象

東北地方 1か月予報
(7月28日から8月27日までの天候見通し)
平成30年7月26日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
週別の気温は、1週目は、高い確率ともに70%です。2週目は、平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

| | | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|--------|--------|---------|-----|--------|
| 【気温】 | 東北地方 | 20 | 30 | 50 |
| 【降水量】 | 東北太平洋側 | 20 | 40 | 40 |
| 【日照時間】 | 東北地方 | 30 | 40 | 30 |

<気象経過の各階級の確率(%)>

| | | 低い | 平年並 | 高い |
|-------|------|----|-----|----|
| 1週目 | 東北地方 | 10 | 20 | 70 |
| 2週目 | 東北地方 | 20 | 50 | 30 |
| 3～4週目 | 東北地方 | 30 | 30 | 40 |

<予報の対象期間>

1か月：7月28日(土)～8月27日(日)
1週目：7月28日(土)～8月3日(金)
2週目：8月4日(土)～8月10日(金)
3～4週目：8月11日(土)～8月24日(金)

6月1日～8月31日は「農業危害防止運動」の実施期間です。

- ・次回の水稻生育調査は8月1日(水)に行います(直播のみ)。
- ・次号の「気仙沼・南三陸稲作情報」は8月上旬の発行を予定しています。